

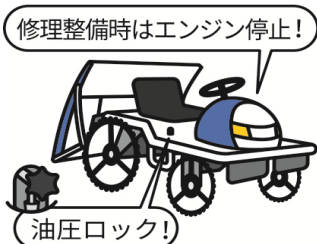
「動画でCHECK！」
で安全・安心



田植機 セルフメンテナンス

動画をみながら点検にトライ！
～機械を長持ちさせるための点検ポイント～

「農作業安全&熱中症対策もあわせてチェック！」



着座して操作する！



人をウエイト代わりにしない



停止操作はHSTレバーで！



安全に乗り降りする！



JAえちご上越 農業機械課

はじめに

本資料は、組合員の皆様が自らの手で農業機械のメンテナンスを実施していただくためのポイントを整理したものです。

日頃から定期的な点検および調整を実施していただくことが、使用時のトラブル減少や機械の長持ちにつながりますし、機械の修理整備費用の低減にも有効です。

この資料を参考に是非日頃のメンテナンスをお願いいたします。

なお、この資料で記載した内容や写真は一部メーカーの特定型式を例にして説明しています。

皆様所有の機械とは点検個所の位置や点検・調整方法が異なる場合がありますので、必ず機械付属の取扱説明書とあわせて確認いただきますようお願いいたします。

セルフメンテナンス実施にあたっての注意事項

- ◆ 取扱説明書で必ず注意事項や点検・調整内容の確認してください。
- ◆ 作業帽（ヘルメット）、安全ぐつ、作業着などの作業に適した服装で作業してください。
- ◆ エンジンを始動する場合は、各変速レバーを中立にし駐車ブレーキをかけてから始動してください。
- ◆ 倉庫内等でエンジン始動する場合は、換気に注意してください。
- ◆ 点検・調整や掃除を実施する場合は、エンジンを止め機械の各部が停止していることを確認してください。
- ◆ エンジン停止直後はマフラー等が高温になっています。十分に冷めてから作業を行ってください。
- ◆ 点検・調整時は、平たんな場所で必ず各変速レバーは中立にし駐車ブレーキをかけて実施してください。
- ◆ 植付部等を持ち上げて点検作業等を行う場合は、必ず油圧ロックをしてください。
- ◆ 点検・調整に使用する工具は必ず適正な工具を使用ください。
- ◆ 点検・調整作業でご不明な点があった場合はJA農機センターにご相談ください。
- ◆ 機械から抜き取った廃油や冷却水、フィルターや不要部品等は必ず産業廃棄物処理業者へ依頼し、処分してください。

動画でCHECK！



目次 ～点検項目とおおよその位置～

<全体>

- | | |
|------------------|-----|
| 13. ヒューズ・配線 | P9 |
| 22. 各部の注油とグリスアップ | P13 |
| 23. 長期格納時の注意事項 | P14 |

<運転席回り>

- | | |
|-------------|-----|
| 15. ハンドル | P10 |
| 16. クラッチペダル | P10 |
| 17. ブレーキペダル | P11 |

<植付部>

- | | |
|------------|-----|
| 19. 植付爪 | P12 |
| 20. 植込フォーク | P12 |
| 21. 施肥装置 | P13 |

<走行部>

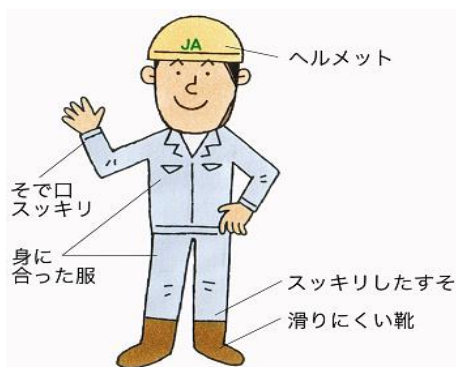
- | | |
|---------|----|
| 14. タイヤ | P9 |
|---------|----|

<ミッション・油圧>

- | | |
|--------------|-----|
| 18. ミッションオイル | P11 |
|--------------|-----|

<エンジン回り>

- | | |
|-------------------|----|
| 1. エンジンオイル | P3 |
| 2. エンジンオイルフィルター | P3 |
| 3. ラジエータスクリーン(水冷) | P4 |
| 4. 冷却水(水冷) | P4 |
| 5. ラジエータホース(水冷) | P5 |
| 6. ファンベルト(水冷) | P5 |
| 7. 燃料フィルター | P6 |
| 8. 燃料ホース | P6 |
| 9. キャブレター(ガソリン) | P7 |
| 10. エアクリーナ | P7 |
| 11. バッテリー | P8 |
| 12. 点火プラグ(ガソリン) | P8 |



メンテナンスは作業に適した服装で！！

銘柄や型式により各点検項目の場所が異なる場合がありますので取扱説明書で確認をお願いします。

1 エンジンオイル

動画でCHECK！



- 【働き】 ● エンジン内部の潤滑や冷却、洗浄、防錆、密封を行います。
● エンジンオイルが不足したり劣化した場合、オーバーヒートや出力低下、白煙の発生をまねき、最終的には焼き付きの原因となります。

点検方法

- ① オイルゲージを抜き出し、きれいなウエス等で先端のオイルをふき取り、汚れを確認します。
- ② 再度オイルゲージを差し込んだ後、抜き出してゲージの上限と下限の間にオイルが付着していることを確認します。
- ③ オイル量が不足している場合は、給油口から適量を補充します。

交換方法(調整方法)

- ① エンジンオイルの交換は、エンジン暖機運転後停止し、十分冷えてから行います。
 - ② エンジン下部のドレンプラグを外してオイルを抜き取ります。
 - ③ 完全に抜け切った状態でドレンプラグを元の状態に戻します。
 - ④ 給油口からエンジンオイルを規定量入れ、5分程度放置した後オイルゲージでオイルの量を確認します。
 - ⑤ 少なければ給油、多ければドレンプラグを外し、抜き取ります。
- エンジンオイルは定期的に交換してください。アワメーター100時間使用毎またはシーズン終了後のどちらか早い時期に交換します。
 - 新車購入時は、取扱説明書の指定時間で交換してください。
 - エンジンオイルの入れ過ぎは出力低下やエンジン全損の原因となりますのでご注意ください。



エンジン下部



2 エンジンオイルフィルター

動画でCHECK！



- 【働き】 ● エンジンオイルのゴミを除去します。
● フィルターがゴミで詰まるとエンジンオイルの交換を早める原因となるとともにエンジン寿命を縮める原因となります。

点検方法

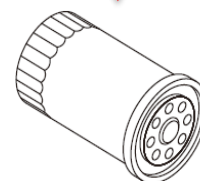
- ① 外観からは判断できません。
 - ② エンジンオイル交換2回に1回(またはアワメーター200時間毎)は交換を行います。
- 新車購入時は最初の50時間経過後のエンジンオイル交換時にフィルターも交換してください。

交換方法(調整方法)

- ① エンジンオイルが完全に抜けたらオイルフィルターをフィルターレンチを使用して外します(左まわし)。
- ② 新しいフィルターのOリングにエンジンオイルを薄く塗り、指定された強さで締め付けます。(基本的には手で締め付けます。)
- ③ エンジンオイル給油後、エンジンを5分程度低速運転し、オイルランプの異常や油漏れがないか確認します。
- ④ エンジン停止後、エンジンオイルの量を再度点検します。



フィルターレンチ



3 ラジエータスクリーン (水冷エンジンの場合)

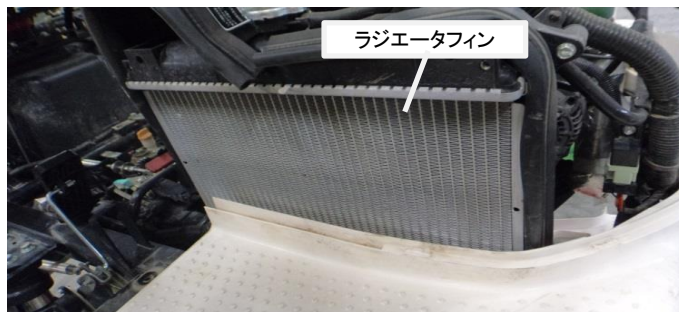
動画でCHECK!



- 【働き】 ● ラジエータへのホコリや虫の付着を防ぎます。
● 掃除をしないで目詰まりが起これば、ラジエータへの空気の流れがとどこおり、オーバーヒートの原因となります。

点検方法

- ① スクリーンにゴミの付着がないか確認します。



交換方法(調整方法)

- ① スクリーンを抜き出します。
② ブラシや清水できれいに掃除し、元の状態にもどします。
③ スクリーンがない場合は、エアーでゴミを取り除きます。
● ラジエータフィンを高圧エアーやヘラ等固いもので掃除しないでください。変形の恐れがあります。

4 冷却水 (水冷エンジンの場合)

動画でCHECK!



- 【働き】 ● エンジンを冷却します。
● 冷却水が不足したり劣化するとエンジンのオーバーヒートの原因となります。

点検方法

- ① サブタンク(リザーブタンク)の冷却水の量が上限と下限の間にあることを確認します。
② 冷却水の量の点検は、エンジンが冷えた状態で実施します。



交換方法(調整方法)

- ① サブタンク内の冷却水が下限より少ない場合は、上限まで冷却水を補給します。
② 交換する場合は、ラジエータキャップとドレンプラグを外してラジエータ内の冷却水をすべて抜きます。
③ ラジエータキャップを外す場合は、必ずエンジン停止後十分にエンジンが冷えている状態で行います。
④ ドレンプラグを取り付け、冷却水を必要量入れた後、ラジエータキャップを取り付けます。
⑤ 冷却水に色が付いている場合、凍結防止のための不凍液が入っています。不凍液を入れる場合は混合比に注意してください。



5 ラジエータホース（水冷エンジンの場合）

動画でCHECK！



- 【働き】 ● ラジエータとエンジン間の冷却水の通路です。
● 漏れが発生するとエンジンの冷却ができず、オーバーヒートの原因となります。

点検方法

- ① ホースからの水もれや亀裂、剥がれ、硬化等の損傷・劣化を確認します。
- ② ホース継手部にゆるみや漏れがないか確認します。



交換方法(調整方法)

- 交換が必要な場合はJA農機センターにご相談ください。

6 ファンベルト（水冷エンジンの場合）

動画でCHECK！



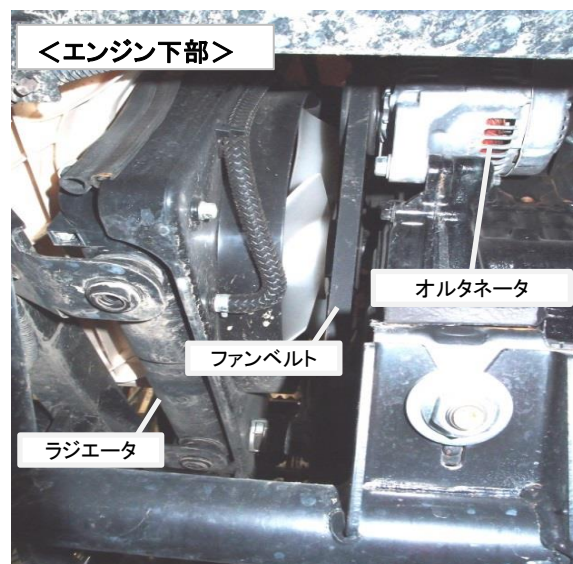
- 【働き】 ● 冷却水を循環させるポンプや発電装置を動かすためにエンジンの動力を伝達します
● ベルトの摩耗、亀裂等によりたわみが発生した場合、オーバーヒートやバッテリー上がり原因となります。

点検方法

- ① ベルトの中間（プーリーとプーリーの間）を指で押さえ、たわみ量が規定値どおりか確認します。
- ② ベルトに破損や摩耗がないか確認します。

交換方法(調整方法)

- ① ベルトのたわみが規定値と異なる場合はベルトの張りを調整します。
- ② 張りの調整はオルタネータの取付ボルトを緩めオルタネータを移動して調整しますが、具体的には取扱説明書で確認してください。
- ③ ベルトの交換が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。



7 燃料フィルター

動画でCHECK！



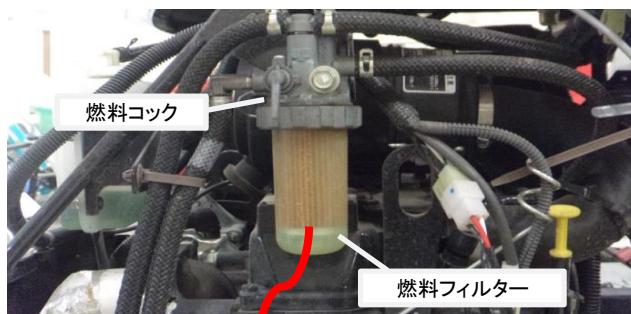
- 【働き】
- 燃料に混じったゴミや水を取り除きます。
 - 長い間掃除をしないとエンジンの出力低下や始動性悪化の原因となります。

点検方法

- ① 目視でゴミ等の有無を確認します。目視で確認できないエレメントの場合は、定期的な交換が必要です。取扱説明書で確認してください。
- ② ゴミがある場合は、燃料コックを閉じてフィルタエレメントを取り外し、カップおよびエレメントを燃料で洗浄します。
- ③ エレメントを取り付け、ディーゼルエンジンの場合は燃料のエア抜きをします。エア抜きの方法は取扱説明書で確認してください。

交換方法(調整方法)

- ① フィルターの汚れがひどい場合は交換します。アワメータ300～400時間毎にエレメントを交換する機種もあります。交換時期は取扱説明書で確認してください。
- ② エレメントの購入についてはJA農機センターにご相談ください。
- ③ ディーゼルエンジンの場合、エレメント交換後にエア抜きを行います。



燃料フィルターを
分解した様子

8 燃料ホース

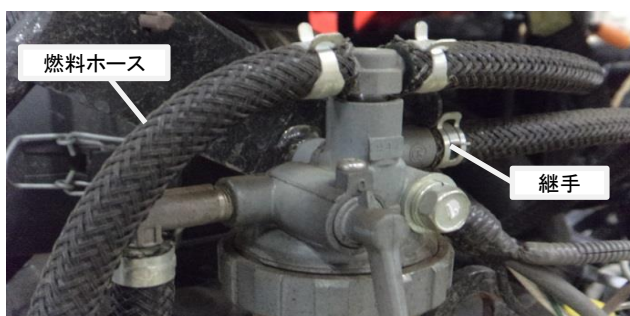
動画でCHECK！



- 【働き】
- 燃料タンクからエンジンまでの燃料の通路です。
 - ホースの破損等により燃料漏れが発生するとエンジンの始動困難、火災発生の原因となります。

点検方法

- ① 燃料ホースの亀裂等破損による燃料漏れがないか確認します。
- ② ホースの継手のゆるみを確認します。



交換方法(調整方法)

- 交換が必要な場合はJA農機センターにご相談ください。

9 キャブレター (ガソリンエンジン)

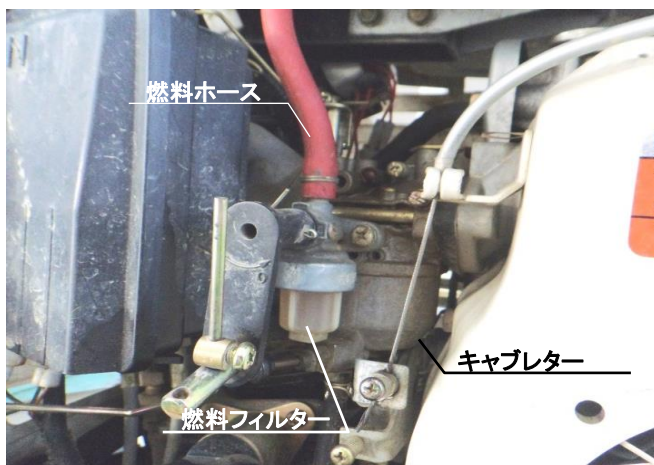
動画でCHECK!



- 【働き】
- 燃料を霧状の微粒子にし空気に混合します。
 - 長期間燃料を入れた状態で保管すると詰まりが発生し、エンジンの始動困難・回転ムラの原因となります。

点検方法

- ① 長期格納時にキャブレター内に燃料が残っている場合は燃料を排出します。
 - ② 燃料の排出方法は機械によって異なり、燃料コックで行うものや別途ノブが存在するもの等あります。取扱説明書で確認してください。
- ガソリンは長期間放置すると変質し、詰まり等トラブルの原因となります。



交換方法(調整方法)

- 異常がある場合はJA農機センターにご相談ください。

10 エアクリーナ

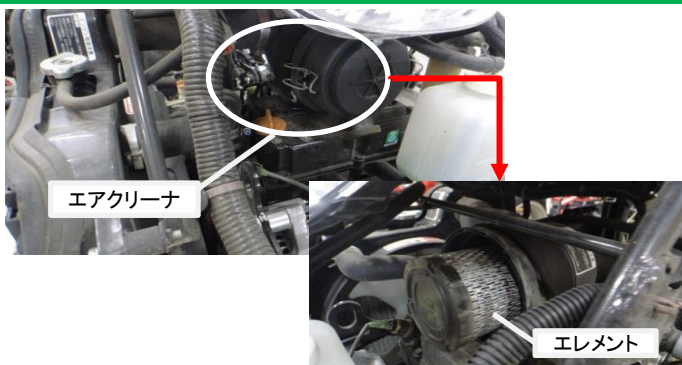
動画でCHECK!



- 【働き】
- エンジンが取り込む空気の塵やホコリを除去します。
 - エアクリーナが汚れると黒煙発生やエンジン内部の摩耗の原因となります。

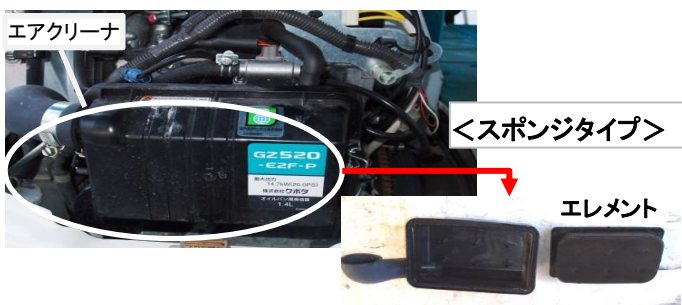
点検方法

- ① エアクリーナの蓋を取り外し、エレメントを抜き出します。
- ② エレメントの変形や目詰まりを確認します。
- ③ 塵やホコリはエアーで吹き飛ばします。
- ④ エレメントがスポンジの場合は、灯油等で洗います。



交換方法(調整方法)

- エレメントを交換する場合はJA農機センターにご相談ください。
- エレメントは定期的に交換してください。アワメータで50時間毎に清掃、300時間毎に交換してください。
- スポンジの場合は、汚れや劣化が激しい場合交換します。



11 バッテリー

動画でCHECK！



- 【働き】 ● エンジン始動や各電気装置の電源となるとともに発電された電気を蓄えます。
● バッテリー液の不足やターミナルの錆等によりエンジンの始動困難、自動化装置不調の原因となります。

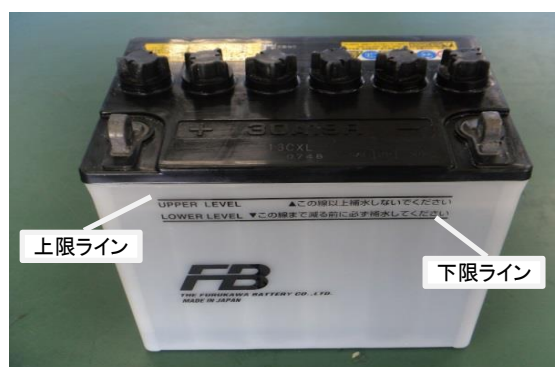
点検方法

- ① バッテリー液が規定量入っているかインジケータや側面の上限下限ラインで確認します。不足している場合は該当の仕切りのキャップを外し蒸留水を規定量まで補充します。
- ② ターミナル部分に腐食が発生していないか確認します。
- バッテリー液を入れすぎると充電時にバッテリー液が吹き出し、金属部分の腐食の原因となります。



交換方法(調整方法)

- ① 充電が不足している場合は、田植機からバッテリーを外して充電します。
- ② バッテリーを田植機から外す場合は、必ずキースイッチをオフにしマイナス(黒)コードを外し、次にプラス(赤)コードを外します。(取付の場合は逆の手順となります。)
- ③ バッテリーを交換する場合は規格に注意します。
- ④ 端子が腐食している場合は、ワイヤブラシ等で取り除きます。
- 取付は逆の手順となりますが、プラスとマイナスを間違わないよう注意してください。
- 充電は、バッテリー容量の1/10～1/20の電流で行い、充電中は火気に十分注意してください。(爆発の恐れがあります)



＜バッテリー単体＞

12 点火プラグ (ガソリンエンジン)

動画でCHECK！



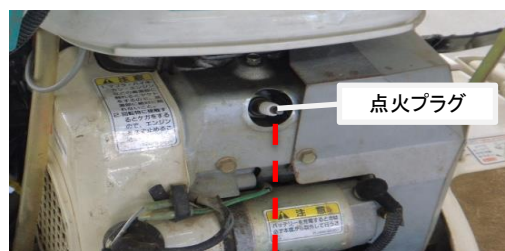
- 【働き】 ● エンジン内に吸い込まれた燃料に点火します。
● 長期間掃除や交換を行わなかった場合、プラグにカーボンが付着し点火不良の原因となります。

点検方法

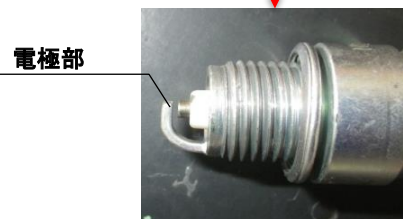
- ① ボンネットを外し、エンジンの点火プラグキャップを外し、付属のプラグレンチでプラグを取り外します。
- ② プラグの電極部の状態を確認し、カーボンが付着している場合は、ワイヤブラシでカーボンを落とし組み付けます。
- ③ 電極部の摩耗や損傷がある場合は交換します。

交換方法(調整方法)

- ① 交換が必要な場合は、取扱説明書で型式に合ったプラグを手配し交換してください。
- ② 不明な場合はJA農機センターにご相談ください。



田植機前面・点火プラグ
キャップを外した状態



13 ヒューズ・配線

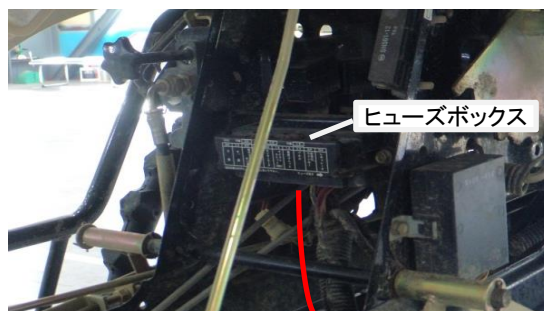
動画でCHECK！



- 【働き】
- 過電流が流れた時、ヒューズが切れて配線を保護します。
 - ヒューズが切れた場合、電気部品の作動不良の原因となります。
 - 配線が損傷した場合、ヒューズ切れや火災、電気装置の作動不良の原因となります。

点検方法

- ① 機能していない箇所があった場合、ヒューズを確認し、断線している場合は同じ容量(アンペア)のヒューズと交換します。
- ② ヒューズには様々な種類があります。取扱説明書で種類を確認してください。
- ③ 配線やカプラー等に破損がないか確認します。また、可動部と接触していないか確認します。
- ④ 配線の被覆がはがれている場合はビニールテープ等で補修します。



交換方法(調整方法)

- 配線が断線している場合は、JA農機センターにご相談ください。
- ヒューズを交換しても、再びヒューズが切れる場合は配線等に問題があります。JA農機センターにご相談ください。



14 タイヤ

動画でCHECK！



- 【働き】
- 走行および機体や運転者への緩衝の役割を果たします。
 - 空気圧の異常や摩耗、亀裂によりパンクや操舵性の悪化、走行不能やタイヤ脱落の原因となります。

点検方法

- ① タイヤに亀裂や摩耗がないか確認します。摩耗や亀裂がひどい場合は交換が必要です。
- ② 車軸取付部のガタやボルト・ナットの緩みがないか確認し、緩みがある場合は締付けます。
- ③ 空気入りタイヤの場合は空気圧を確認します。
- ④ 空気圧が規定値と異なる場合は空気の調整をします。規定値は取扱説明書で確認をお願いします。

交換方法(調整方法)

- 交換が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。



15 ハンドル

動画でCHECK！



- 【働き】 ● 田植機の舵取りを行います。
● 調整不良の場合、操作性や直進性悪化の原因となります。

点検方法

- ① 前輪タイヤをまっすぐにし、ハンドルの遊びを確認します。遊び量の基準値は取扱説明書で確認してください。
- ② 遊びの確認は、エンジンを始動した状態でハンドルを軽く左右に動かし、タイヤが動く寸前までの範囲を測定します。（パワステでない場合はエンジンを止めた状態で行います。）



交換方法(調整方法)

- 修理・調整が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。

16 クラッチペダル

動画でCHECK！



- 【働き】 ● エンジンの動力をミッションへ伝達、遮断します。ブレーキペダルがクラッチの働きを兼ねる機種もあります。
● 調整不良の場合、走行や停止が出来ず、事故の原因となります。

点検方法

- ① ペダルを手で押して遊び量の確認をします。遊び量の規定値は取扱説明書で確認してください。
- ② エンジンを始動し、変速を低速に入れてクラッチを踏んだ時に機体が停止し、離れた時に機体が動くことを確認します。
- ③ クラッチペダルがない型式もあります。（ブレーキペダルがクラッチペダルを兼ねる）



交換方法(調整方法)

- 修理・調整が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。

17 ブレーキペダル

動画でCHECK!



- 【働き】 ● 左右の後輪を制動します。
● 調整不良の場合、機体が停止できなくなるほか、片ブレーキの原因となり事故につながります。

点検方法

- ① ブレーキ左右の連結金具を外し、左右それぞれのペダルを手で押して遊び量を確認します。遊び量の規定値は取扱説明書で確認してください。
- ② 左右の遊び量が同じであることを確認します。
- ③ 左右ブレーキペダルを連結し、駐車ブレーキレバーでブレーキをロックできるか確認します。
- ④ 左右独立ブレーキを採用していない機種もあります。この場合は、ブレーキを踏み込んでエンジン始動し、主変速前進または後進時にブレーキを離すことで走行することを確認します。



交換方法(調整方法)

- 修理・調整が必要な場合は、JA農機センターにご相談ください。

18 ミッションオイル

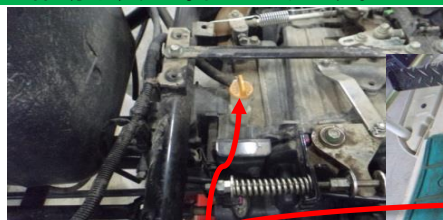
動画でCHECK!



- 【働き】 ● ミッション内部の潤滑、冷却、防錆機能を果たします。また、油圧装置の作動油として使用します。
● 劣化や量の不足により油圧装置の作動不良の原因となります。

点検方法

- ① ミッションオイルゲージを抜き取りきれいなウエス等で拭き取った後、再度差し込んでオイルの量が規定値か確認します。同時に汚れも確認します。
- ② のぞき窓から量を確認するタイプもありますので、取扱説明書で確認してください。



<ミッションオイル給油口の例>



交換方法(調整方法)

- ① エンジン停止後、十分に冷めてから行います。
 - ② ドレンプラグを外してオイルを抜き取ります。
 - ③ ドレンプラグを取り付け後、給油口からミッションオイルを規定量入れます。ミッションオイルの規定量およびオイルの規格については取扱説明書で確認してください。
 - ④ ミッションオイルを交換した場合、ミッションオイルフィルターも同時に交換します。交換要領はエンジンオイルフィルターと同様です。
- ミッションオイルおよびミッションオイルフィルターもメーカーにより交換の目安が指定されています。取扱説明書で確認してください。



<ミッションオイルゲージ>



<田植機底面>

19 植付爪

動画でCHECK！



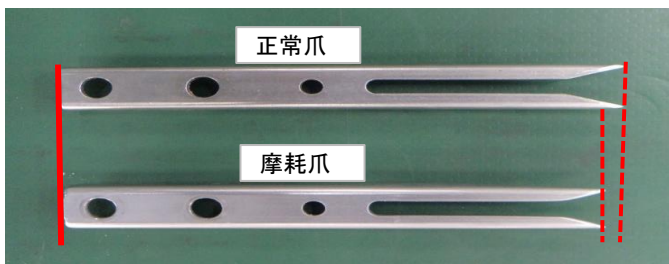
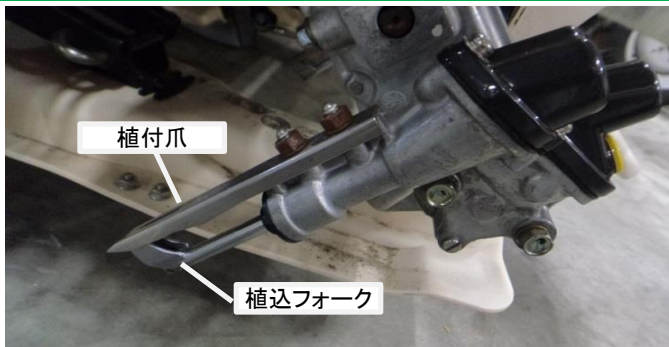
- 【働き】 ● 苗マットから苗をかき取ります。
● 植付爪が摩耗したり変形すると欠株や苗の植え付け姿勢の乱れの原因となります。

点検方法

- ① 植付爪の摩耗や変形を確認します。
- ② 摩耗の確認は取扱説明書の原寸図と比較する方法と寸法を測定する方法があります。取扱説明書で確認してください。

交換方法(調整方法)

- ① 植付爪取付ボルトまたはナットを外して交換します。
- ② 交換の際には機械によってシムの装着やプッシュロッドとの隙間等注意する必要がありますので取扱説明書で確認してください。
- ③ 爪交換を実施した場合、苗の縦取量の調整を行います。
- ④ 縦取量の調整はロータリケースを手動で回転させ、苗取口に付属ゲージをセットし、植付爪の先端が正規の位置にくるように調整します。



20 植込フォーク(プッシュロッド)

動画でCHECK！



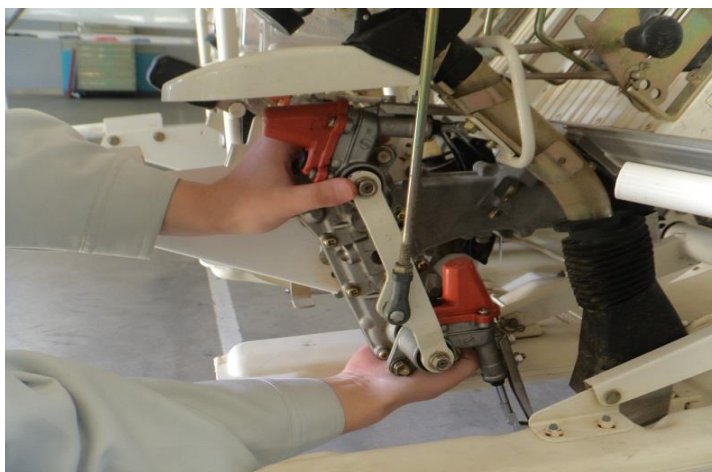
- 【働き】 ● 植付爪と連携して苗取を行い、植付けを行います。
● 作動に不具合が発生すると植付不良の原因となります。

点検方法

- ① 植込フォークの作動と変形の有無を確認します。
- ② 主変速「中立」、ブレーキロック後、エンジンを始動し植付部を上昇させ、油圧ロックを行いエンジンを停止する。
- ③ 植付クラッチを「植付」にした後、植付爪を手で回して植込みフォークの作動を確認します。

交換方法(調整方法)

- 作動不良や変形があった場合は修理が必要となります。JA農機センターにご相談ください。



21 施肥装置

動画でCHECK！



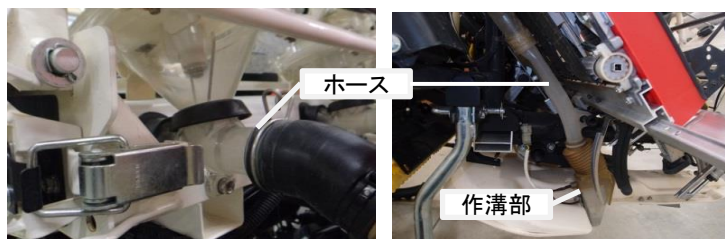
- 【働き】 ● 田植と同時に苗側条に施肥を行います。
● 肥料を入れたまま長期保管を行うと肥料詰まりや機械腐食の原因となります。

清掃方法

- ① 作業終了後に清掃を行います。
- ② 施肥装置内部にある肥料を完全に取り除き、内部を水洗いした後、完全に乾燥させます。
- ③ 清掃方法は機械により異なりますので取扱説明書で確認してください。
- ④ 施肥装置以外にもステップ、後車軸ケース、植付部リンク等への肥料の付着がある場合は水洗いします。



＜側条施肥機とホッパー＞



ホース

作溝部

22 各部の注油とグリスアップ

動画でCHECK！



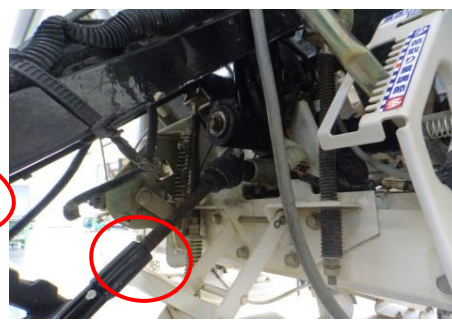
- 【働き】 ● 摺動部には注油またはグリスアップが必要です。適切な注油を怠ると部品の摩耗が早まります。

点検方法

- ① 機体各部の掃除後や田植作業を始める前に各部の注油やグリスアップを行います。（運転席の各種レバー支点部、走行部、植付部の苗載せ台レールやリンク支点部等）
- ② 注油箇所は取扱説明書で確認してください。



苗載せ台レール



プロペラシャフト接続部



植付アーム



横送りネジ



縦送りクラッチ

23 長期格納時の注意事項

- ① ガソリンエンジンの場合は、燃料タンクから燃料を抜き取り、キャブレター内の燃料もドレンスクリューを緩めて抜き取ります。ガソリンを抜き取った後、燃料コックをOFFにします。
- ② ディーゼルエンジンの場合は、燃料を満タンにします。
- ③ バッテリーは完全に充電し、なるべく機械から取り外して風通しの良い冷暗所に保管します。バッテリーを本機に取り付けたまま保管する場合は、必ずマイナス端子を外しておきます。
- ④ クラッチ付型式の場合、クラッチの錆付きや固着を防止するため、クラッチペダルは踏んだ状態で固定します。
- ⑤ 植付部のスタンドを立て、植付部を下げて乾燥した風通しの良い場所に格納します。
- ⑥ 油圧シリンダーの防錆運転のため、1～2か月毎にエンジンをかけて植付部を最上昇位置まで1～2回操作します。

動画でCHECK!



メンテナンス日誌

実施日	点検チェックおよび不良箇所			備考
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 (水冷) ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. エアクリーナ ☐ 13. ヒューズ・配線 ☐ 16. クラッチペダル ☐ 19. 植付爪 ☐ 22. 各部の注油とグリスアップ 不良箇所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース (水冷) ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. バッテリー ☐ 14. タイヤ ☐ 17. ブレーキペダル ☐ 20. 植込フォーク	☐ 3. ラジエータスクリーン (水冷) ☐ 6. ファンベルト (水冷) ☐ 9. キャブレター (ガソリン) ☐ 12. 点火プラグ (ガソリン) ☐ 15. ハンドル ☐ 18. ミッションオイル ☐ 21. 施肥装置	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 (水冷) ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. エアクリーナ ☐ 13. ヒューズ・配線 ☐ 16. クラッチペダル ☐ 19. 植付爪 ☐ 22. 各部の注油とグリスアップ 不良箇所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース (水冷) ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. バッテリー ☐ 14. タイヤ ☐ 17. ブレーキペダル ☐ 20. 植込フォーク	☐ 3. ラジエータスクリーン (水冷) ☐ 6. ファンベルト (水冷) ☐ 9. キャブレター (ガソリン) ☐ 12. 点火プラグ (ガソリン) ☐ 15. ハンドル ☐ 18. ミッションオイル ☐ 21. 施肥装置	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 (水冷) ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. エアクリーナ ☐ 13. ヒューズ・配線 ☐ 16. クラッチペダル ☐ 19. 植付爪 ☐ 22. 各部の注油とグリスアップ 不良箇所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース (水冷) ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. バッテリー ☐ 14. タイヤ ☐ 17. ブレーキペダル ☐ 20. 植込フォーク	☐ 3. ラジエータスクリーン (水冷) ☐ 6. ファンベルト (水冷) ☐ 9. キャブレター (ガソリン) ☐ 12. 点火プラグ (ガソリン) ☐ 15. ハンドル ☐ 18. ミッションオイル ☐ 21. 施肥装置	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 (水冷) ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. エアクリーナ ☐ 13. ヒューズ・配線 ☐ 16. クラッチペダル ☐ 19. 植付爪 ☐ 22. 各部の注油とグリスアップ 不良箇所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース (水冷) ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. バッテリー ☐ 14. タイヤ ☐ 17. ブレーキペダル ☐ 20. 植込フォーク	☐ 3. ラジエータスクリーン (水冷) ☐ 6. ファンベルト (水冷) ☐ 9. キャブレター (ガソリン) ☐ 12. 点火プラグ (ガソリン) ☐ 15. ハンドル ☐ 18. ミッションオイル ☐ 21. 施肥装置	
年 月 日	☐ 1. エンジンオイル ☐ 4. 冷却水 (水冷) ☐ 7. 燃料フィルター ☐ 10. エアクリーナ ☐ 13. ヒューズ・配線 ☐ 16. クラッチペダル ☐ 19. 植付爪 ☐ 22. 各部の注油とグリスアップ 不良箇所:	☐ 2. エンジンオイルフィルター ☐ 5. ラジエータホース (水冷) ☐ 8. 燃料ホース ☐ 11. バッテリー ☐ 14. タイヤ ☐ 17. ブレーキペダル ☐ 20. 植込フォーク	☐ 3. ラジエータスクリーン (水冷) ☐ 6. ファンベルト (水冷) ☐ 9. キャブレター (ガソリン) ☐ 12. 点火プラグ (ガソリン) ☐ 15. ハンドル ☐ 18. ミッションオイル ☐ 21. 施肥装置	